

生活力の基礎培う小学受験

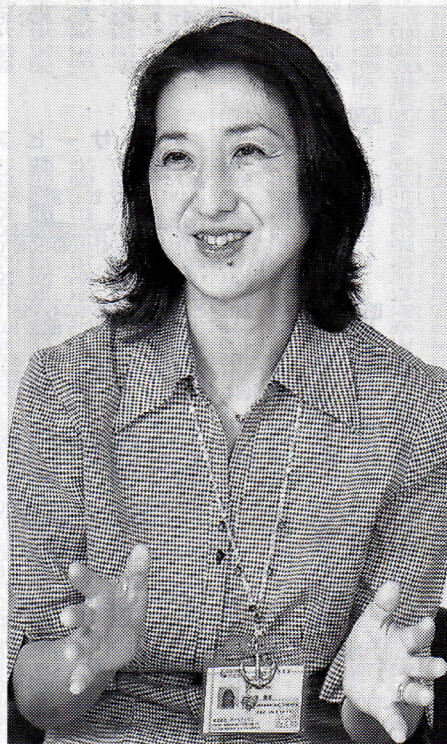
小学受験なんて、ブランド志向にすぎないと思っていました。だから長男(17)のときは中学受験に思いは至っても、小学受験に関心がなかった。でも次男(6)のとき、受験に備える「幼児教室」を見に行ったら考えが変わりました。

小学受験で与えられる課題は、絵を描いたり、工作をしたり、シャツをたたんだり、といったこと。要するに人の話を聞き取り、記憶し、指示を理解し、判断し、行動を起こすという能力を問われます。

私は経営者として採用や人材育成にかかわる中で、こうした能力は企業や社会が求めるものだと思えます。

同じ受験でも中学、高校、大学への関門なら、ペーパーテストが中心ですので、過去の入試問題を解いてみて、一番得点を稼げる学校を選ぶしかないという現実があります。でも小学受験への訓練は、生活力をつ

2010 7/22 A 子どもと受験 6



—東京都多摩市、伊藤圭撮影

主婦の声を企業などに届ける
「キャリア・ママ」社長

つづみ
堤 香苗さん(46)

ける基礎になると思いました。

実際、次男は3歳から5歳まで週に2回幼児教室に通い、ぐんぐん成長しました。先生が上手にほめるので、できなかったことが2、3カ月で突然できるようになる。意味のない落書きは、味わい深い絵に変わ

り、目がキラキラしてきます。

子どもができないと、ついイライラして怒っていた私も、「自由にやっごらん」と言った時の子どもの潜在力の大きさを目にし、少しずつほめるようになりました。親子ともども成長できたと思います。

ただ、小学受験に挑まなかったらものすごく後悔したかというところでもありません。母親が子どもにしっかり寄り添い、お手伝いや外遊びをさせていれば、自然に身につく能力だからです。私は仕事の関係で十分に寄り添えなかったので、プロの力を借りました。

やはり働く母親は、安心して子どもを任せられる学校を選びたい。その点、私立は建学の理念があり、それを理解した人が校長になっているので教育方針がぶれないし、優れた教師がそろっていることも多い。

私自身、神戸女学院を中高一貫で卒業させてもらったおかげで、「自主自立」の精神をたたき込まれたと思います。それに社会に出て分かったのは、卒業生人脈の幅がすごいこと。いろんな場面で支えられ、子どもにもこんな人的財産を持たせてやりたいと思いました。

おかげさまで長男、次男ともに、

それぞれの個性にあった東京都内の私立に入学できました。ただ、望んだ学校に入れたから万歳、と言えるほど甘くはありません。高校受験のない一貫校なので中だるみがあったり、反抗期があったりで、なかなか親の思うようにいかないものです。

受験でそれぞれ2年余り、ときには疲弊し衝突し、対話を繰り返しながら親子で一緒にがんばった経験があるからこそ、信じて見守っていますが、やはり節目、節目で手を添え続ける必要がありますね。

最近、他社の人事部と意見交換をすると、「地方の国立大学を出た学生がいいよ」「ほしいね」という話が出ます。5教科でまんべんなく基礎学力を身につけた人なら、まず間違いがない。つまり、企業は自分で学び、吸収し、実務に生かせる能力をもつ人を求めます。

結局はこんな若者に育てばいいわけです。だから私立が絶対にいい、というつもりもありませんし、小中高の受験という一時点の結果に、一喜一憂しないことだと思います。